

普賢岳トレッキングコース：妙見カルデラ等の火山活動

島原半島は地下深くのマグマの動きにより形成された。火山は成長し、噴火し、崩壊し、また成長し、半島の山並みを作り出した。350 万年前に始まる、ほとんどの火山活動はこの場所の南と西で起こり、火山はゆっくり長崎沖に島を形成した。しかし、約 50 万年前に火山活動は突然北に移り、それが最古の雲仙火山となった。それらの噴火により火山島が九州とつながり、島原半島が誕生した。

続く 15 万年以上の間、マグマの流れによる圧力は弱まった。半島の中心は北東の断層に並行に沈み始め、中心地域が引き離され、地溝に残った。(それらが引き離され、2 つの断層の間に谷が形成された。) その後 35 万年のうちに、多くの火山が雲仙地溝に溶岩円頂丘を形成した。噴火によって発生する圧力で、火山は頻繁にそのマグマだまりの空隙に崩れ落ちカルデラを形成する。この活動により野岳カルデラが約 7 万年～15 万年前に作られた。このサイクルは妙見火山がこの大きなカルデラ内に形成され、やがて近隣の国見岳 (1,347 m) と眉山 (819 m) の噴火の後に崩壊するまで続いた。

火山崩壊の遺跡である妙見カルデラは今日も鑑賞することができる。このカルデラ周辺は両方面に落ちる傾斜のある狭い登山道となっている。東に向かって普賢岳 (1,359 m) と、立岩の峰、しまのみねの 2 つを合わせた 3 つの山が 4 千年から 5 千年前の連続的な噴火により形成された。これらの上にそびえたつ平成新山 (1,483 m) は、1990 年から 1995 年に形成された最新かつ最高度の溶岩円頂丘である。